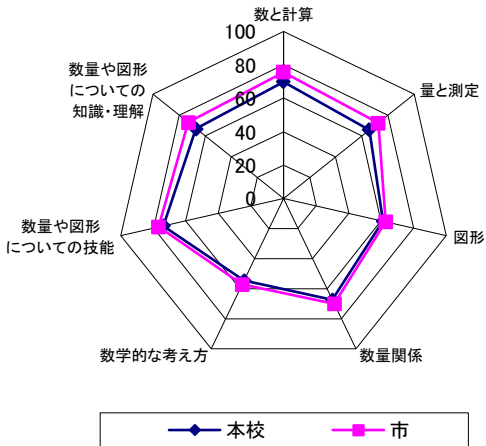


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.8	75.6	75.8
	量と測定	65.7	72.5	71.2
	図形	61.1	62.8	71.0
	数量関係	67.4	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	54.7	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	73.8	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	66.9	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・正答率は、宇都宮市の平均を約6ポイント下回っている。 ・分数のかけ算や小数のわり算の仕方は、正しく身に付いている。 ・図を使ってわり算の式を考えたり、除数が1より小さいときの商を選んだりする問題の正答率が低く、わり算の仕組みについて理解度が低い。	・計算練習を繰り返し行ったり、ミニテストを定期的に実施したりして、計算力の向上を図る。 ・計算の仕方を機械的に覚えるだけでなく、なぜそのような計算になるのか、話し合いを通して理解を深めていく。 ・既習の学習内容を活用して、問題に取り組むようにする。
量と測定	・正答率は、宇都宮市の平均を約7ポイント下回っている。 ・単位量当たりの大きさを使って物の値段を比べる方法は、正しく身に付いている。 ・高さが図形の外にある三角形の面積を求める方法など、特別な図形の面積の求め方についての理解度が低い。	・面積や体積、速さなどの学習では答えを求めるだけでなく、実生活との関連を図りながら、大きさや速さの感覚が身に付けられるようにする。 ・低学年では具体物等の操作活動を十分にを行い、形や大きさなどの感覚を身に付けさせる。
図形	・正答率は、宇都宮市の平均をやや下回っている。 ・合同の条件を理解し、見本の図形を正確に作図することができる。 ・線対称の定義や円周の求め方についての理解度が低い。	・定規やコンパス等を使って作図を指導する際は、十分な活動時間を確保し、使い方の習熟を図る。 ・図形の性質や特徴については、学年に応じて具体的な操作活動を取り入れ、学習内容の理解を深める。
数量関係	・正答率は、宇都宮市の平均をやや下回っている。 ・帯グラフの見方や比例・反比例の関係については、正しく理解している。 ・割合や比の意味についての理解度が低い。	・割合や比の指導では、実生活との関連を図り具体的な場面を想定して問題を作るなど、児童が興味関心をもって問題に取り組めるように授業の導入の仕方を工夫する。 ・グラフの指導では、社会科など他教科との関連を図りながら指導する。